



香葉

第6号

通算37号

関東学院女子短期大学

香葉会

発行人 山口佳子

代表 横浜市金沢区

六浦東1-50-1

直通・FAX 045-787-0678

E-mail: kouyoukai@nifty.com

URL <http://homepage3.nifty.com/kouyoukai/>

猿島散策

- 日程 平成20年10月18日(出)
- 時間 午前10時(集合)～午後1時(解散予定)
- 場所 横須賀中央駅(東口)
船の時間(10:30)が有りますので時間厳守
- 会費 2,000円(船代・保険代含む)
- 申し込み方法
香葉会事務局までFAX・往復はがき・Eメールでお申し込み下さい。
準備の都合上10月8日までをお願い致します。
FAX 045-787-0678
Eメール kouyoukai@nifty.com

秋の海へ行ってみませんか。六浦から横須賀に向かって…。今回は島探検を企画しました。近くて遠い島：猿島です。島から横須賀の街を見てみましょう。小さなお子様も参加できます。歩きやすい服装でご参加ください。

猿島散策

散策企画
No.7



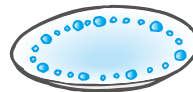
陶芸教室

- 日時 平成20年11月1日(出)10時～12時(成形)
12月6日(出)10時～12時(色付け)
- 場所 関東学院大学 室の木7号館(陶芸棟)
- 会費 3,500円
- 持ち物 エプロン・タオル
- 申し込み方法 同上
- 申し込みは10月20日(月)まで。

恒例の散策です。今年も西洋館のクリスマス飾りを楽しみに…。各館の飾りもレベルアップしています。当日はささやかなプレゼントがあります!!

山手西洋館散策

今年のテーマは『お皿』。どのような形のものが出来上がるかは皆様の思いのまま! 卓上に置いて使うのも…。玄関に飾るのも…。さあ、ふるって参加して下さい。今回は2日間です。成形には必ず参加下さい。(色付けはお願いすることが出来ます)



陶芸教室へのお誘い

山手西洋館散策

- 日程 平成20年12月11日(休)
- 時間 午後1時集合
- 場所 港の見える丘公園入り口
- 会費 500円(資料・保険代など)
- 申し込み方法 同上
- 申し込みは12月3日(休)まで。

初心者歓迎します。毎月、第一・第三水曜日、室の木香葉会室にて開催中です。見学、ご自由にどうぞ。

日本画教室

日本画教室・陶芸教室…の作品を展示致します。メディアセンターのホールスペースをお借りして香葉会会員の皆様の作品を展示したいと思います。会員の皆様、作品をお待ちしております。展示会最終日には香葉会の茶話会を考えております。

展示会

関東学院125周年記念

作品募集

関東学院125周年記念 展示会

- 日程 平成21年1月17日(出)～2月14日(出)
- 場所 メディアセンター(関内から5分位)
- 作品搬入日 平成21年1月16日(金)
直接メディアセンターへお持ち下さい。
- 作品搬出日 平成21年2月14日(出)
メディアセンター引取り
- 申し込みは平成20年12月22日(月)までに作品名・大きさを明記の上、香葉会事務局まで。



会長あいさつ

山口佳子(国1)



皆様こんにちは!

例年「香葉」は九月一日の発行となっております。当然暑い夏に、記事の追い込みをかけていく日程が組まれていくわけですが、このような紙面が出来上がっていくときの不安や喜び、どれだけの方に読んでいただけるかが、いつも担当者にとっての課題です。

大学全体のお知らせ、人間環境学部での学生の様子、香葉会がさせていただいている学生への支援、卒業生の活躍の情報、恩師や卒業生からの投稿、クラス会報告、陶芸教室、散策の場所のお知らせ、そしていつも資金面を支えてくださる方々のお名前のご報告等、考えられるあらゆることを紙面に掲載できるよう構成をします。

学校の歴史、短大としての特徴、女性の生き方等、たった八枚分の中にその号のテーマが見えるとそれは大成功、惹きこまれてしまう文章があればこれも大成功。

それだけでなく掲載記事を書くために、座談会をしますと年齢を超えた繋がりに感激、書いている調べものに対し他の同窓会の方に思わぬ助言をいただくこともあり関東学院同窓会の繋がりに感謝、遠く他国に

暮らしている方からのお便りに感謝!といった積み重ねが「香葉」を作っていきます。

またこうした作業の間にいろいろな発想が湧いてきます。子育ての悩みは誰に話すの?姑との世代間のずれはどう解決するの?情報関連の仕事は若い人ばかりに負担がかかることをどうしたらいいの?そして出てきたのは後輩への支援の方法は?同窓会として何ができる?短大の存在をわかっていただけける方法は何?ということでした。

人間環境学部第一回卒業生の折、学部賞の支援の話がありました。このことがヒントとなり「香葉賞」を創設することが出来ました。吉田先生始め学部長や太宰さんのご尽力と感謝しています。受賞された方の言葉もこの号に載っておりますのでご覧下さい。

さて第五号で、通信費の話を書きましたら多数の方々が、メールでのお便りを下さいました。すぐに応えてくださった事がとても嬉しく感謝しています。ただ学校の情報にはお目を通していただきたいと願っておりますので、ホームページの充実をはかって参りたいと検討中です。より多くより早く親しみやすいお知

らせをホームページ上に載せて参りますので併せてご覧下さい。またメールでのお知らせもしてまいりますので、メールアドレスをお寄せ下さい。本年度も元気に香葉会は発信

鎌倉散策報告

岡崎 敬子(国7)

平成十九年十一月十七日(土)
一〇時 鎌倉駅西口(江ノ電側)集合。鎌倉市吉屋信子記念館、鎌倉文学館を巡るコースです。当日は鎌倉市鍋木清方記念美術館にも寄ることができました。

吉屋信子記念館は信子晩年の住居で、昭和四十九年に遺言により鎌倉

してまいります。皆様ご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。
○事務局開室日
月・水 十時から三時

市に寄贈され記念館になりました。信子は香葉会で活躍された故吉屋保子姉(英2)の叔母にあたり香葉会と縁の深い方です。「展示されている信子の写真から保子姉の面影を見ました。」との参加者からの声も。眺めの良い書斎には大きな机があり、ここで信子が創作に没頭した姿が目に見えました。

そして鎌倉文学館へ。ここは旧前田公爵家の別邸で昭和六十年に開館しました。折から中原中也展を開催しており、抒情豊かで透明感のある独自の世界を開いた中也の世界に浸りました。遠くに海が見え、広い庭には薔薇が咲き誇り、心休まるひとときでした。

小町通りから少し入った所に有る鍋木清方記念美術館は、日本画家として一家をなした清方の旧宅跡に平成十年に開館しました。古き佳き江戸・明治の情緒の漂う作品や、資料と共に画室も再現されており、興味深く鑑賞しました。

天候にも恵まれ、紅葉した木々や小径の草花に秋を感じながらの楽しい散策でした。





親愛なる香葉会の皆さま、お元氣でお過ごしでしょうか。

月日の経つのは本当に早く、私もアメリカで生活をするようになって四年目に入りました。

相変わらず殆ど日本語で生活しています。と、余り自慢にはならない状況です。

今年日本で洞爺湖サミットが開催され、一段とエコロジーについて考えさせられる日々です。そこで今回はアメリカのエコについて、自分の周りを中心にレポートしてみたいと思います。

先日、日本の知り合いから、海外でのエコ事情を教えて、と問い合わせがあり、さて、困ったものよ、と頭を抱えてしまいました。

ゴミの分別：殆どなし。マーケットではレジ袋を日本の三倍くらい使ってくれる…。レストランや屋外のトイレでの紙類の完備。手を拭くときも紙です。(私もすっかりハンカチを持たずに外出するようになってしまいました) カリフォルニアは日照時間が圧倒的に長いのに、ソー

ラーシステムは余り使われていない。等々。

日本のニュースを見たり聞いたりしていると、本当に日本は温暖化対策に力が入っているなあ、といつも感心しています。

もちろん、アメリカも全く無関心ということではなく、リサイクル、リユース等も行われていますが、日本ほど徹底してはいない様子です。

マーケットでのエコバッグ使用も浸透してきて、マーケット毎にデザイン凝ったエコバッグを販売しています。結構お洒落で、物の割りに安価なので買うのですが、他のマーケットでは使い辛く、Aマーケットに行くときにはAのエコバッグ、BにはBの…。という具合にエコバッグばかり増えてしまっていて、これ为本当にいいの？と友達と笑ったりしています。ロゴ入りのものを買わなければいいことなのですが、つい！まだまだ甘いですね。

広大な土地と乾燥した気候を利用して、風力発電を行っている地域もあり、その景色は壮観でさえあります。また、ここカリフォルニアは本当に気候が良く、夏時間の期間は殆ど雨が降らず、日照時間が長いのです。太陽の恵みをもっと利用したら良いのに、いつも思っています。友人にソーラーシステムの会社の方の奥さんがいるので、がんばってください、と伝えました。

結局他力本願なことばかりで、自分でできる身近なエコは…。物を簡単に捨てないで、再利用しよう！と、様々なものを溜め込んで家

中がゴミの山になってしまい、自己嫌悪との戦いの日々です。でも実は「捨てられない」性格なのです！
それでは、私の環境対策は前途多

春の桜、新緑の緑、銀杏の黄葉、クリスマス色の青いイルミネーションと人間環境学部(室の木)のキャンパスは季節を感じることができません。特に週に一度、他の学部には無い季節感を味わっています。それは茶道の授業の上生菓子が届く時です。季節を表現した菓子は目を楽しませ、心が和みます。甘く煮た牛蒡を味噌餡と餅で包んだ正月の花びら餅は、長寿を願う新年に頂くお菓子。

夏越の祓とも呼ばれる水無月祓(みなぎばらえ)を行う日(六月三十日)に頂く水無月。美味しそうなお菓子を眺めながら、四季折々の行事、自然を大切にす

る日本の文化の表現の繊細さ、風情を感じています。秋のお菓子は紅葉、錦秋、紅葉(もみじ)など紅葉を表現したお菓子がありますが、なかに命名を「竜田川」と表現することがあります。これは有名な「古今和歌集」の在原業平の「ちはやぶる神代も聞かず竜田川から紅に水くくるとは」から流水に紅葉を散らした模様が竜田

母校ニュース (室の木ニュース)



可部 明子 (国20)

難ですが、夏でもクーラーが必要なくらい爽やかな気候に感謝しつつ、今年はこの辺で。
皆様お元氣で益々ご活躍ください。

川模様であることに困っていることから名づけられているのだと思います。学生時代の古典(中古)の授業を思い出し、懐かしい気分になります。日本語の美しさ、多様な表現に触れることは気持ち豊かにし、更に、心にゆとりを持つことの重要さを教えてくれます。人間環境学部には茶道以外でも芸術科目が設けられています、

その中には女子短期大学の流れを引き継ぐ科目があります。それは家政科の生活文化専攻にあった染色や陶芸の科目で、現在は布のデザイン、土のデザインという科目名で開講されて、学生は多彩でアットな時間を過ごしています。また、女子短期大学の習慣を引き継いでいると感じたことに、キャンパス(室の木)内で教職員に学生たちが自ら挨拶することがあります。もちろん全員ではありませんが、視線のあった見知らぬ学生が挨拶することは、小さなキャンパスならではの良さなのかもしれません。これはいつまでも残って欲しい慣習です。

女子短大三十余年 新学部誕生までの足跡

徳永 透
(元 英文科教授)



本学の間環境学部は関東学院女子短期大学の改組・転換によって誕生した新しい学部である。平成十四年四月五学科二専攻を有する女子短期大学は、関東学院大学の新設学部となり、女子短大の英文科と経営情報科は現代コミュニケーション学科として併合された。旧短大の伝統は新学科に引き継がれることになった。学院の機構改革が進展したのである。

平成十八年三月、環境学部第一期生の卒業セミナー「日本文化を発信する英語演習」を最後に私は定年退職となった。これを機に私の女子短期大学専任教員として在職三十余年の概要を回顧し新学部に期待を寄せたいと思う。

関東学院女子短期大学は横浜の学校法人関東学院における唯一の女子

高等教育機関として存在していた。昭和二十五年の学制改革によって女専の伝統を継ぐ短期大学となったが、昭和四十二年四月、既存の「家政科」・「英文科」に「国文科」が増設されて、関東学院女子短期大学と名称が変更された。これを機にして教職員の十名が新規に採用されて、新体制が成立した。私は英文科専任講師として就任することができたのであった。

昭和四十年代の関東学院は大学紛争の渦中であって状況を打開できなかった。短期大学は六浦キャンパスを共有し、図書館や体育館その他教室の一部は完全に大学に依存の状況にあった。兵舎を改造した大学の寮の火災から起こった内紛は学院内に変革をもたらした。法人内の各学校は自立運営を強制され、短大では学長公選のやむなきに至った。相川高秋学長の後任として教授会では家政科の林淳三教授を新学長に選出して、昭和四十四年四月短大は新たな船出となった。主体性の確立をスローガンとして、学校のグラウンド・デザインが描かれた。学院の事情に精通した小玉敏子教授、下田哲教授、上市二郎事務長を柱として、キリスト教主義を教育理念とする短期大学構想が実践されて行った。女子

のエリートを教育するという教養主義に、栄養士や保母の資格を与える職業教育を取り入れた総合短大への発展を期する方針が決定されたのである。

女子短大はその後、ハンソン山を開発して短大独自のキャンパスを整備し、室ノ木へ完全移転を終了した。昭和五十年代に短大の教育環境の整備に伴い、学内の機構が改革され部長制が導入された。学院外に対して関東学院女子短期大学は女子の高等教育機関として名実共に面目を一新するに至ったのである。

初代の学生生活部長（昭和五十四年）に任命された私は、英文科の授業担当の他に、学生生活全般に関する学生課の責任を任された。課外活動、就職、学寮の運営の他の対外諸活動等は学生主事や寮アドバイザーの意欲的な協力によって円滑に進んだ。全国体育大会に参加して達成した成果は上市二郎事務長の細やかな配慮に支えられていた。クラス単位で運営された体育祭は教職員も参加するプログラムで全学的に一丸となった。秋の文化祭は在校生、受験生、卒業生と世代の違う人達でキャンパスが活況を呈した。卒業生で組織する香葉会が参加して講演会を恒例化した。食物栄養に続く幼児教育の課程の新設によって学生数が千名を超えて、五学科二専攻の総合短大に成長、北は北海道南は沖縄まで全国各地からの進学生が百名を収容する学

寮で青春を過ごした。創立四十周年を記念して経営情報科の新設によって二千名規模の総合短大となった。評価の高まりによってキャンパスには受験生があふれた。日本中の女子学生の憧れる女子教育機関の実現は教職員の大きな喜びであった。



1号館横にある記念碑

英文科では最新の教育機器を完備した語学教室や有能な専任教職員のもとで充実した英語専門の教育を提供した。二名の米国人専任教員を中心に六、八名の外国人講師が十五、二十名の小クラスで実践的な会話を養成した。文学コース、語学コース、国際コミュニケーションコース

の別編成によるカリキュラムは有効であった。英検二級合格者の実績校として連続して優良団体の表彰カップが並んだ。

昭和五十年代の後半、大学における国際理解教育の推進の高まりは著しい傾向が見られた。学生の海外研修について準備委員会で検討を重ねた後、林学長は専任の教員を採用した。担当の立花主事は先ずハワイ大学における夏期二週間、二十名の語学研修に着手し第五回まで実施した。この全学的協力による研修の実績を踏まえて本格的な国際交流構想が具体化し、次いで学内に国際交流センターが設置されるに至った。他校の先駆となった。

経営情報科設置に向かって学術書の選書、購入を基本とする図書館の整備に館長（昭和六十年）として二年間奔走した後、私は国際交流センター所長（昭和六十二年）に任命された。種子島で少年時代に夢みた太平洋の彼方の国への探訪は現実のものとなった。夏期の研修は学生三十名、三週間、引率者三名の構成でカナダのプリティッシュ・コロンビア大学との交流が可能となった。私は团长として隔年に五回カナダのバンクーバー市に滞在した。夏期の異文化体験は実際に天恵と思われた。十年間にカナダ社会は著しく変容した。初期の頃ホームステイ先として馴染んだ白人の居住地がアジア系の人達に占められていて、研修生を受け入れるステイ家族もモザイク社会といわれるカナダの国状を反映していた。中国語を生活手段とする家族

の主人は「英語を学びにくる若い人を大歓迎する」と言った。そのような家族に寄宿して、戸惑った学生は英語と中国語の二つの言葉を学べたと帰国の折に笑顔で別れの挨拶をしていた。本学

のカナダ研修は年ごとに希望者が増した。英文科生だけでなく、全学生に開放された行事に家政科生や幼児教育科生など多数が参加した。異国の食文化や保育の現場体験は関心の的であった。週末の一泊旅行は、異文化社会で見聞をひろめ、若い感受性と国際感覚を涵養するのに有効であったと思われる。

物事を地球の観点から考え、日本人として自覚をもって人間らしく生きる意義を体得した学生達は、異文化体験を通して国際親善に貢献したのである。将来共生社会のカナダ研修の成果が二十



中庭よりチャペルを望む

一世紀の国際交流の推進に役立つことが期待される。ちなみに平成の時代になって日本の短大全国研修会において私は学生の異文化コミュニケーション活動の事例について報告

名を超え、教授会三十分前まで数名について校医から許可が得られなかった。一人は週末の集団活動に身体的に不適切とされた。团长として決定を任された私は簡単な面談の後に参加を決定して、帯同した。帰国して成田で解散の時、彼女は「先生ありがとう、関東にきて良かった」と言っていて、笑顔の母親に迎えられた。忘れることのできない挿話である。

平成の時代には英文科長（平成四年）を兼務し、国際交流センター所長としては特別に、夏期研修の他、全学生対象の語学教室を企画し、米国人二名による英会話の課外授業を実施した。また米国の大学教育事情を視察して、卒業生の進学を促進するため姉妹校提携を実現した。米国のオタワ大学やフランクリン大学との交流のため渡米して親交を深めた。各大学で学んだ卒業生の数名は米国で活躍中である。

歴代五名の学長の下、在職三十五年私の任務は女子教育の促進にあった。平成四年以降、英文科長として専攻科の充実を課題とし、修了生三名が学位伝授与機構から大学卒業の資格を得た。みどりのハンソン山の開発から実に美しい室の木キャンパスが創造されたが実際全教職員による校訓の実践の見事な成果と言えよう。私は昭和二十九年東京の八王子市にある都立南多摩高等学校を卒業した。共学校二年目のキャンパスは女子高特有の雰囲気と校風を特色とする女子の名門校であった。今年創立一〇〇周年を祝う母校から湧水万古の声が聞こえる。

を行ったのだが、海外研修の単位認定校は本学のみであった。

夏期カナダ研修参加学生の決定に際して、五学科よりの希望者が三十



四十五年前、家政科を卒業する際、桧垣先生より、御主人が「伝導所をつくり幼稚園を始めるので手伝って」と声をかけて頂いたのが切っ掛けでスタートをきった幼児教育の道、二年間お手伝いし、その後専門の大学で学び、何故か今度は家族で幼稚園をつくるうということになり、今の場所ではじめたのが四十一年前の昭和四十二年でした。

まだ若い頃でしたし、「この仕事



フリースポットライト

私の仕事

折原祥子(家12)

を嫌だと思った時は何時でもやめよう。」などと自分に云い聞かせての始まりでしたが、四十年間昨年の三月迄続けることが出来ました。

色々な事がありました。子供達と過ごす中で育っていくことの素晴らしさを日々感じる事が出来たからでしょうか、この仕事を嫌だと思っただけは不思議な位なかつたのです。小規模な園ですので、四十年間で約千人の卒園生を送り出し、その親達と関わり、卒園した子供の又その子供と云った具合で、子供達から毎日エネルギーをもらい、大きな病気もせず一日も休むことなく走り続けた感じがしています。

この仕事は子供を育てること、結果がすぐ出るものではないだけに、自分自身を常に磨いていくことが大切だと考えていました。少しでも豊かな自分でなければ子供の前には立てないと思いつけてきました。「心を育てる。」ことを親と共に大切に考え、幼児教育専門の学びはもちろんです、良い絵本、木のおもちゃ、質の良い音楽、昔話の語りに出会い、最後は心の問題カウンセリングを専門に学び、親の相談にものれるようになりました。

昨年四十年目が過ぎようとした時、体力のことや母が高齢であることなどを理由に閉園を決めた所、この安心でき、ほっと出来る場を是非残してほしいという皆の思いが沸き出て来た為、考えた結果、この場を通して、今迄やってきたことを土台に様々な活動を行い、地域に広げていこうと云うことになったのです。赤ちゃんを抱えた若い母親達、又文庫活動を続けている卒園生の母親など、子育て中の親達を中心に「まっぼっくり」としての活動が始まりました。子供や親はもちろん地域のお年寄りにも来てもらえるような場を目指しています。

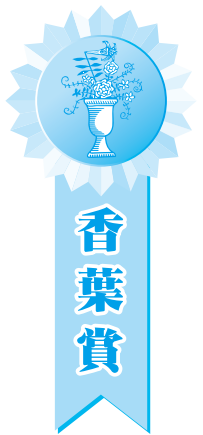
私の役目はまっぼっくりの代表、又就園前の子供達が、週一回母親とこの場で過ごす幼児教室を受けもっています。乳幼児期の育ちは一生を決める大切な時のように思います。週一回、安心出来る自然豊かなこの場に大好きな母親と共に集い遊んでいく中で、母親は自分の子供の日々の成長を受け止めながら、子供を見る目を養い、「育てる」ことの大切さ、楽しさに気づいていきます。子供達は、小さい時から様々な人と関わり、人間関係の基礎を学んでいくことが出来ます。一人でも多くの人が子供を愛しいと思ひ、子育てが楽しいと思える親になってほしいと願ひながら過ごしています。もう一つの仕事は、子育てをしている親達が集い、皆と関わりながら自分を見ていくというグループを持っていきます。社会は今逆に動いていて、子供は他人に任せ仕事が出来ないようにする、母親



が楽になるようにと云う考え方が先行しているようですが、私は、子供と親の関係を乳幼児期にしっかり築いておくことが、一生生きていく時の支えとなり、心の中に位置づくと考えています。

人間関係が希薄になっている今、驚くような事件が毎日のように起きています。原因は全部その人の育ちにあると云えるでしょう。人間が育っていく大切な根の部分をしっかり育てようと頑張っている若い親達に、微力でもその手伝いが出来ることを嬉しく思うと共に、健康でいられる間、子供に関わる仕事をしていきたいと思っています。

馬に乗り、モンゴルの草原を風になつて走るのが好きな私ですが、爽快に馬で駆けぬけるように、これからも出来る迄続けていきたいものだと思います。



短大が改組した人間環境学部の卒業生に対し、香葉会より香葉賞を送る事を役員会で決定致しました。各学科より一名、選考には学部長・学科長にお願いをし、関東学院大学の誇りとなる学生を選んで頂きました。第一回の香葉賞の受賞者は左記のとおりです。(敬称略)

- ◆現代コミュニケーション学科 尾賀 正敏
- ◆人間環境デザイン学科 小宮 政人
- ◆健康栄養学科 鶴岡 知子
- ◆人間発達学科 長井 沙織

受賞者の皆様にアンケートをお願い致しました。二名の方から返事を頂きました。感謝です。(アンケートの内容は以下の通り)



- ① 謝恩会の席上で名前を呼ばれた時は、前を呼ばれた時は、
- ② 名前を呼ばれた時の仲間の反応は、
- ③ 現在、差し上げました記念品(名刺入れ)は使っていますか？

長井さんからのアンケート

①名前を呼ばれる直前まで全く知らなかったのでも驚きました。初めは正直何が起きているのかわからず戸惑いましたが、あの様な席で名前を呼んでいただいで大変嬉しかったです。大勢の仲間の前で名前を呼んでいただき表彰して

いただくというのは気持ちの良いものなのです。

② 仲間も大変驚いていたと思います。"すごいねん" "おめでとう" など色々な声をかけてくれて嬉しかったです。

③ 申し訳ありませんが、職業上(保育士)使う機会がなくまだ使っていません。使う機会がきたら是非使わせていただきたいと思って大切にしまっておりま。

小宮さんからのアンケート

①前もって学科長および教授からは聞かされていなかったのびびくりしました。すごく嬉しかったです。ですが、謝恩会が多いに盛りが付いていたので呼ばれたのに気が付きました。

② 仲間間で気が付いている人はほとんどいませんでした。手に持っている賞状を見て気がつく人が多かったです。気が付いた人はみんな、おめでとうと祝福してくれました。遠い位置に居た人は授賞式に気が付いていなかったようです。

③ 名刺入れありがとうございます。今でも使わせていただいております。手に持った時に受賞したの思い出です。とても大事な宝物になっています。本当にありがとうございます。

小宮さんより:

みなとみらいを走るエコカー、ベロタクシーの人間環境学部号(二代目)が走りはじめたという、報告がついておりました。みなとみらいへお出かけの折には是非、ベロタクシーを見つけて下さい。



コーヨースポットライトに原稿をお寄せ頂いた、折原さんの綾瀬にある幼稚園を友人と共に訪ねました。

幼稚園は、閑静な住宅地の中に四十数年育った木々に囲まれた家庭的な雰囲気でした。

昨年、四十年を節目に閉園、その後周囲の方々の要望もあり"ナーサリー" "まつぽっくり" 子育て中の方達の集まる憩いの場として新たな出発。多種多様な企画で地域の中に解け込んでいる落ち着いた居心地の良い所でした。四十数年一日も休むことなく、健康に恵まれ、春休み・夏休みを利用して仲間と海外の幼稚園を見学・勉強され、充実した日々を過ごしてこられたようです。

卒園生も約千人出されました。成長された卒園生・関係父母とその輪を大切に、地域のために活躍され、素晴らしい仕事をされていたのだと感心するばかりでした。

緑と自然の風、野鳥や蝉しぐれに囲まれ、学生時代の話から次々と話題は尽きず、至福の時を過ごしました。

綾瀬市近郊にお住まいの方、大学との交流会(県央支部)もございました。香葉会のホームページをご覧になり、企画等ご参加頂けましたら幸いです。

<http://www2.odn.ne.jp/matsugaoka/>



秋の気配が一日一日増していく。二〇〇七年十一月十日(土)、葉山の「茶や辻」にてオリーブの会が開かれ十六名が参加しました。

鳥越先生は残念ながら御欠席でしたが、事前に斎藤さんがお会いして、おやさしいお顔の写真とお元気な近況を伝えて下さいました。次回はお目にかかれることを期待しています。

会場の「茶や辻」は、幹事さんのお薦めのお店で、染色が本職ですが、こだわりのお蕎麦を打ってお蕎麦屋さんです。

四人掛けのテーブルが四卓ある趣味の良いお店でした。

四つのテーブルを一つにして十六名全員が囲み、心のこもった蕎麦会席を頂きながら、学生時代の頃の事、健康の事、等々、共通の話題は尽きることなく盛り上がり、笑顔満開の楽しいひとときを過ごしました。

その後、葉山海岸の散策を楽しみにしていましたが、風まじりの冷たい雨が降っていたので取りやめました。心は暖かく次の再会を約束して帰路につきました。

年会費、賛助金へのご協力のお願い メール kouyukai@nifty.com FAX 045-787-0678

いつも年会費、賛助金への温かいご協力感谢您しております。
関東学院大学女子短期大学は、改組により関東学院大学人間環境学部となりましたが、短期大学の卒業生の数は約3万人、伝統を表し現在でも他学部にも劣らぬ数でございます。

女性としての立場を反映したきめ細かな活動を今後とも行って参りたいと考えております。現在、「香葉」の下記にあります収支決算表をご覧ください、決算額の殆どが卒業生の情報紙「香葉」の送付による通信費・印刷代で消えております。同じ学びやで学んだ人が互いに学びやの現在を感じ、良い思い出を心に描き、次のステップへ歩みだすために年会費・賛助金を生かしたいと考えています。

そこで「香葉」は送っていただくなくても結構です。と思う方はFAX、メールにてお知らせいただきたくお願いいたします。香葉会のホームページも充実させて参りたいと考えます。皆様のご協力どうぞよろしくお願い致します。
年会費・賛助金をお振込頂ける場合は下記のとおりお願い致します。

- 郵便局払込伝票番号 02 横浜 00260=3=3587 香葉会
●横浜銀行 追浜支店 普通 0437891
卒業年・科・氏名(旧姓)を記入の上、年会費・賛助金のご協力をお願い致します。

関東学院女子短期大学香葉会

Table with 3 columns: 収入の部, H19年度決算, H20年度予算. Rows include 年会費・賛助金, 特別会計繰入金, 雑収入, 前年度繰越金, 合計, 支出の部, 通信費, 印刷・製本費, etc.

平成十九年度決算・平成二十年度予算
年会費・賛助金の名簿を記載しております。年間の「香葉」の送料及び印刷で予算の半分をしめております。卒業時に納入頂いた会費は、その学年に

香葉会 年会費・賛助金 納入者名簿

皆様のご厚意により、平成19年度のご寄付は729,203円と成りました。香葉会の会費の一部として有効に使わせて頂きます。皆様のご協力に感謝し、今後ともよろしくお願い致します。(敬称略)

- List of names and addresses for donors, categorized by region (e.g., 東京都, 神奈川県, 千葉県, etc.)

編集後記

『香葉』編集委員に新メンバーを加え、企画会議・下見等時間に追われながらの作業でした。『香葉』は如何だったでしょうか。徳永先生からの懐かしい短大での苦勞話。ふと、私たちが居た頃の短大を思い出された事ではないでしょうか。
香葉会の企画に是非参加して下さい。楽しいひとときを一緒に過ごしましょう。
『香葉会』へのご意見・ご感想をお送り下さい。投稿もお待ちしております。